



万座三叉路付近の見下ろし

●白根へ向かう国道292号（通行止め）と万座へ向かう県道466号（万座道路の分岐）（左上）をさらに進めば、毛無峠へと向かう



志賀の路はコーナーを曲がる度に  
新しく深い秋を見せてくれる

志賀草津道路・万座三叉路付近

## 空、雲、そして紅葉 信州の山が見せる表情

ここ横手山ドライブインの標高は2100m。雲海の上をやっと顔を出している笠ヶ岳は2076m。高い山のピークを見下ろしている感じが不思議で、この場所がとても気に入っている。遠くに見えるはずの日本アルプスの3000m級の山々は幾重に連なる雲で今は見えないけれど、その雲の間から、たぶんここで今シーズン最後のサンセットを期待して待つ。ダメかな……でもいいのだ。なぜかここに来ると、ここにいると、澄んだ空気が体にも心にもすーっと入って来て、本当に気分がいいから。

ここでの夏の緑と青の広がりも素晴らしい。秋になると徐々に色付いた紅葉を見下ろせる。その素晴らしい色彩を縫うように、志賀草津道路＝国道292号が日本国道最高点2172mに向かって高度を稼いでいる。当然だけれども山の秋は早く、あつという間に冬になるから都会で油断していると、この風景を逃してしまう。

紅葉を単純な赤や黄で表現するには乱暴すぎる。もつと微妙に色合いや鮮やかさが違う。山の上と下界では温度も陽射しも異なるからだ。その呼び方も赤＝紅葉、黄色＝黄紅、茶褐色＝褐葉とあるらしいが、色の数はもつと多い。秋になって枯れな



が内容ではないけれど、何となく合う。それも作者のブルース スプリングステインではなくて、カントリー界の御三家トリオ（ドリー・パートン／リンダ ロンシュタット／エミルー ハリス）のバージョンが好きだ。

もう今シーズン残されている高地への旅の時間はそれほどない。だから「最高の見頃」という時期じゃなくてもいい。眺めていて十分に目に楽しいし、心が豊かになる。たぶん、その日のその時間にしかない一生に一度きりの「色」なのだから、天気や空が完璧じゃなくても残念に思う必要はない。その日はその日の風景なのだし、他にその風景を眺めていた人は何人いるのか？ という経験は大切な。インスタグラムにあるような絶景写真は、本当に偶然か、



い常緑樹の緑でも単に緑とは言えず、春と夏ではその色合いも鮮やかさも違う。英語だと紅葉はメイプルツリーズ・タイン・カラーだろうか（これもちよっと大雑把な表現だ）。北米でも紅葉の素晴らしい道はたくさんあって、それこそ赤も黄も茶もある。まあ適切な和訳がない言葉はたくさんあるから仕方ないし、この逆もまたしかり。英語をそのまま和訳したら、おかしな言葉になることもある。個人的には紅葉のシーズンになると「夢のカリフォルニア」や「アクロス ザ ボーダー」という曲を思い出す。「夢のカリフォルニア」の歌詞は、紅葉と寒空の下でロサンジェルス青い空と暖かさを思う内容で、出だしが葉はみんな褐色になって……というフレーズだからだ。「アクロス・ザ ボーダー」は紅葉

地元の人やプロが何度も何度も通った結果の最高の1枚だろうから。天気と光線は気まぐれなのだ。

この横手山ドライブインの駐車場からは、個人的に夕景がイチバンだと思っている。信州長野側に少し下った右コーナーの退避場から南側の谷を見下ろせるから、日中の絶景紅葉地として人気がある。ここはバイクと一緒に写真を撮るには混んでいるのでいつも遠慮する。確かに深い渓谷なので色付き具合が距離によって違っていて、それはそれは見事なだけだ。

それに、口コミやSNSもバカにはできない。信州大町上の鷹狩山展望台がそうだった。眼下に大町、その向こうに北アルプスの山並みを望む絶景ポイントで、特に夕景や夜景が素晴らしいし、バイクも入れ込んで写真が撮れる。で、気が付くと不思議なハート型のモニUMENTがあった。「恋人の聖地」だという。「恋人の聖地」は全国各地にあつて、NPO法人地域活性化支援センターが非婚化、少子化対策で「恋人の聖地プロジェクト」を立ち上げていて、要するに「ここはプロポーズに最高！です」というポイントを認定しているのだ。最高に眺めがよくて、気分が盛り上がる場所ということが「プロポーズの成功率は未発表」。

そういうわけで恋人とタンデムで行くなら最高の夕景ポイントではあるし、グループの記念写真にも最高